

<報道関係各位>

2012年3月6日

鉄とラグビーの街釜石・浜のミサंगा「環」生産者協議会
三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会

「浜のミサंगा 環(たまき)」が結ぶ、鉄とラグビーの街・釜石と杉並区永福商店街の皆さんの交流

「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 永福町商店街」開催

三陸の女性たちが復興の想いを込めて作る「浜のミサंगा 環」実演・販売と復興語り
震災後の釜石の1年を、生の声と写真・映像で伝えます

3/17(土)・18(日)11時～17時 東京都杉並区永福町商店街 特設会場

鉄とラグビーの街釜石・浜のミサंगा「環」生産者協議会は、三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会と連携し、「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 永福町商店街」を、3月17日(土)・18日(日)の2日間、東京都杉並区永福町商店街で開催します。

未曾有の大震災から1年。津波で失った三陸の港や漁場の復旧は依然として進んでいません。生活を支える仕事の確保はまだまだ難しく、大きな不安を抱えています。

「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 永福町商店街」は、復興への祈りを込めて「浜のミサंगा 環(たまき)」を作り続けてきた釜石市の女性たちが、三陸の食とともに復興への懸命の歩みを語り、ご支援いただいた皆様へ感謝の気持ちを伝える交流イベントです。

■震災で全てを失った釜石市と支援いただいた永福商店街の皆さんの交流が始まっています。

永福町商店街の皆さんは、震災直後の昨年5月に永福町で開催した「釜石と夢のスクラム」を開催、9月に岩手県釜石市を訪問し、集まった義援金と街路灯に飾ってある応援フラッグを写真集にして届けていただきました。その後は、津波で壊滅的な被害を受けた釜石の只越商店街振興組合と永福町商店街とで被災現状視察や情報交換会を行うなど交流を続けています。

■浜の女性たちが復興へ願いを込め、漁網で手作りした「浜のミサंगा 環(たまき)」実演・販売と復興語り

昨年6月、岩手県大船渡市三陸町で甚大な津波被害を受けた浜の女性たちは、いわし漁などに使われる漁網と麻紐を使って手仕事を始めました。この「浜のミサंगा 環(たまき)」は、浜から浜へと広がっていき、これまでに岩手・宮城の約300人の作り手によって144,443セットを生産、95,910,152円が被災地に支払われています。(2012年2月29日現在) ミサंगा1セットをご購入いただくと約700円以上が被災地の皆さんの賃金となり地域に雇用を生み出す“キャッシュ・フォー・ワーク”の手法で被災者の自立支援を目指しています。

17・18日のイベントでは、復興への祈りを込めてミサंगाを作ってきた浜の女性たちが、手仕事の実演と販売を行いながら復興への想いを直接語り、支援いただいた皆さんと交流します。

■三陸の復興グルメや、釜石市復興への歩み写真展も開催。

当日は、被災地で活動を続けてきた炊き出しキャラバン「いわて三陸復興食堂」も交流と出会いをサポートします。「三陸復興 イカ焼きそば」、「三陸タコ唐揚げ&秋鮭フライ」などを提供します。また釜石市の「震災から1年の懸命の歩み」を写真パネルで展示するほか、被災地で活動を続けるミュージシャンらによる音楽ライブも行います。

なお、本事業は、農林水産省の『食と地域の絆づくり被災地緊急支援事業(農山漁村コミュニティ活性化対策)』の支援を受けて実施しています。

<本件に関する報道関係の皆様からのお問合せ先>

「三陸に仕事を！プロジェクト」広報デスク(プランニング・ポート) 福嶋・瀬尾
TEL: 03-5645-6600(内線819) 携帯TEL: 090-8163-3160(福嶋)

<一般の皆様からのお問合せ先>

三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会 info@sanriku-shigoto-project.com

**※大変お手数ではございますが会場準備の都合上! ご取材いただける方は3月16日(金)までに
FAX返信用紙または、お電話にてご連絡いただきたくお願い申し上げます。**

開催概要

- 名称 「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 永福町商店街」
- 日時・場所 2012年3月17日(土)・18日(日)
11:00~17:00 東京都杉並区永福町商店街 特設会場
住所:東京都杉並区永福町
※京王井の頭線・永福町駅前
- 主催 鉄とラグビーの街釜石・浜のミサンガ「環」生産者協議会
- 企画・運営 三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会
- 運営 復興食堂実行委員会
- 入場 無料
- 目的 被災地・三陸で生まれた復興への想いを込めた手仕事「浜のミサンガ 環」は、震災で深く大きな傷を負った浜の女性たちに仕事と仲間、そしてほっとする笑顔をもたらしました。そこで今度は、ミサンガを作るだけでなく支援いただいた皆さんと復興を語り、交流し、ありがとうの気持ちを伝え、また元気をいただく、感謝と復興のキャラバンを行います。
- 内容
 - 1) 「浜のミサンガ 環」三陸の作り手女性たちによる実演・販売&復興語り
「浜のミサンガ 環(たまき)」(太・細2本セット/1,100円税込)
ブルーバージョン(青)・ウインターバージョン(緑)・ホワイトバージョン(白)・
さくらなでしこバージョン(ピンク)の4種を手作りしながら販売します。
 - 2) 釜石市の「震災から1年の懸命の歩み写真展」
 - 3) 「いわて三陸復興食堂」活動記録写真展&イトイン
 - ・三陸復興 イカ焼きそば
 - ・三陸唐揚げセット 三陸タコ唐揚げ&秋鮭フライ※飲食コーナーは無くなり次第終了
 - 4) ミニライブ RIA+ノリシゲ (17日を予定)
 - 5) 釜石市特産品の販売コーナー
 - 6) 釜石シーウェイブスR F C 紹介コーナー
- 参加者 釜石市の「浜のミサンガ 環」の作り手 6名
復興食堂実行委員会サポートメンバー 3名
スクラム釜石のメンバーなど
永福町のみなさん

「浜のミサンガ 環（たまき）」について

未曾有の大震災から1年が経とうとしています。避難所から仮設住宅へと住まいは移ったものの、地域の暮らしを支え、生きていくための原動力となる「仕事」はまだまだ得られていません。仮設住宅に移ることで、暖房費を始めとした水道光熱費などの支払いが必要になってきました。被災地にはなかなか思うような仕事が無く、故郷から離れざるを得ない人たちが増えてきています。

これらを打開するために、お金だけのためではなく、やりがい、張りあい、そして未来に希望をつなぐ心の糧を創出する「キャッシュ・フォー・ワーク」を取り入れたのが、三陸に仕事を！プロジェクト「浜のミサンガ 環（たまき）」です。

このプロジェクトは、被災地で雇用を生み、被災地にお金を還流させ、仕事があることで元気を生む、仕組みです。大船渡市三陸町や釜石市などの生産グループ数名でスタートしましたが、浜から浜へ、ついには県を越え 宮城県までの広がりを見せています。震災直後は、家も家族も失って、茫然としてこもりがちになり、未来も希望も見えない日々が続きましたが、囲炉裏で仲間と一緒におしゃべりをしながら、一生懸命ミサンガ作りに励むことで、静かだった被災地に笑い声や、今後の話をする場が生まれました。

“環”とは、日本古来のブレスレットの呼称です。被災地にあった使われない漁網を利用し、ひとつひとつ漁網で編んだオリジナルのミサンガは、被災者の女性たちがグループになって手仕事で作り、2011年6月に第一期限定販売、その後も東北地方をはじめ全国各地の店舗やインターネットを通じて販売してきました。

ミサンガの販売代金1,100円(1セット・税込)のうち、材料費や販売経費、諸経費を除いた576円が作り手の方々の賃金となります。また、材料である網を切ったりする二次加工を担い、作り手さんをサポートする現地の被災企業・被災者の方々にも1セットにつき154円(為替や材料費の変動で変化)が支払われ、被災地の方々の収入になります。

●キャッシュ・フォー・ワーク報告 2012年2月29日現在

[生産数]	144,443 セット
[販売数]	131,487 セット
[つくり手さんの人数]	298 人
[つくり手さんの収入]	83,199,168 円
[生産管理者さんたちの収入]	12,710,984 円



※キャッシュ・フォー・ワーク(Cash for Work)とは

「労働対価による支援」の訳。被災された方々みずからが復旧・復興のために働き、それに対して対価を支払う支援プログラムのことです。多くの途上国の災害復興の場面で採用されてきた実績があります。例えば2004年のインド洋大津波災害の被害を受けたインドネシア、2008年にミャンマーを襲ったサイクロン災害、2010年のハイチ大地震など、こうした災害では多くのNGOや国連機関によりCFWが実施され、その効果を挙げてきました。

- ・運営母体：三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会
- ・事務局： 岩手めんこいテレビ・仙台放送・盛岡博報堂・
仙台博報堂・博報堂テーマビジネスユニット
- ・活動推薦団体：キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン

代表 永松伸吾（関西大学社会安全学部 准教授）



F A X 返信先 : 03-6730-9593

《 F A X 返信用紙 》

「三陸に仕事を!プロジェクト」広報デスク
(プランニング・ポート内) 福嶋・瀬尾 宛

「浜のミサンガ 環(たまき)」が結ぶ、鉄とラグビーの街・釜石と杉並区永福商店街の皆さんの交流

「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 永福町商店街」開催

三陸の女性たちが復興の想いを込め作る「浜のミサンガ 環」実演・販売と復興語り
釜石の1年を、生の声と写真・映像でお伝えします

3月17日(土)・18日(日) 11時~17時 東京都杉並区永福町商店街特設会場

取材 (___日___時頃~)

媒体名		
御社名		
部署名		
ご芳名	他 _____ 名様	
連絡先	TEL	FAX

《備考欄》 ご取材につきご要望・ご質問等ございましたら、ご記入願います。

※大変お手数ではございますが会場準備の都合上、ご取材いただける方は3月16日(金)までに
F A X 返信用紙または、お電話にてご連絡いただきたくお願い申し上げます。